

諏訪湖・天竜川プロジェクトへの期待

2003 年は諏訪湖周辺の人たちにとって記念すべき年でした。それは湖沼、河川の水質監視が公的に行われるようになって以来 40 年近くもワースト 1 の汚名を上げてきた諏訪湖の水質が長野県下でその座を譲ったというニュースです。もちろん、全国的な番付では 20 年ほど前にワースト 10 から外れてはいたのですが、長野県下でもっとも悪い水質という発表は地元としても弁解の余地のない、恥すべき事実でもありました。

1986 年に湖沼法により指定湖沼となった諏訪湖は現在第四期の計画が進行中ですが、2001 年度に初めてリンの環境基準を達成、続いて 2002 年度にはきわめて難しいとされていた窒素の暫定基準値を達成することができました。残るは COD の環境基準ですが、これも長野県下ワースト 1 を降りることができたことで希望が見えてきたと言えそうです。その証拠に、天竜川の水質観測基準点の水質を平成 14 年度の公共用水域水質測定結果(長野県、2004)で見ると、釜口水門地点で BOD は 2.5ppm と河川の環境基準を達成しています。昨年通算 7 年目となった住民による諏訪湖・天竜川水系健康診断の結果からも天竜川の水質が改善傾向にあることが示されました。

諏訪湖・天竜川の水質改善は流域全体で統一的に取り組むべき課題です。その取り組みも諏訪湖上流から天竜川中流域、そして天竜川下流域の浜松市に至る住民が連携して進める気運が高まり、国土交通省中部地方整備局が中心となって進めつつある「天竜川流域委員会」にも生かされようとしています。この委員会には森本尚武前信州大学学長も立ち上げ時から関与し、委員としても参加されていますが、諏訪湖・天竜川プロジェクトのメンバーも多く参加、協力しています。

地域環境の保全には流域対応が必要なことは専門的には当然のこととして、別に新しいことではないでしょうが、一般的には国の行政機関を含めて画期的な取り組みと言えます。国の施策でも都市再生、自然再生が取り上げられ、地域研究の重要性が認識され、具体的な取り組みが始められるようになりました。信州大学で学部横断的に行われてきたこの「諏訪湖・天竜川プロジェクト」は、まさにこの施策を先取りした、先見性のあるプロジェクトでもあります。そして、地域の住民との協同も専門的な研究成果を地域に還元する目的で、試行錯誤しながらも毎年行われてきました。これは地域研究の展開にとっても住民との協同、情報の共有が重要であるという認識から始められたことで、これも先進的な取り組みの一つと言えます。

これからの大学を取り巻く環境は大きく変わりますが、地域に根ざした研究体制とその成果は新しい大学にとっても価値あるものと評価されるに違いないと確信しています。しかし、だからといって地域の行政、住民に阿るということではありません。事実を正確に伝え、適切な判断をなし得る正しい情報を公開し、共有することが研究者の役割であると考えます。そのためにも諏訪湖・天竜川プロジェクトの先見的な展開と、成果を期待しているところです。

最後に私事ですが、昨年 2003 年 4 月から早稲田大学人間科学部の人間環境科学科に再就職しました。どちらかというと文系の学生が主体となっている学科ですが、環境問題に関心の高い学生が集まっています。これらの学生に文系、理系という区別無く、生態学の立場から環境についての知識を伝え、将来の環境維持に役立つ人材が巣立つことを期待しているところです。本プロジェクトの成果も大いに利用させていただきます。また、地元に戻る週の後半は放送大学長野学習センターのお手伝いをしています。放送大学は長野県内に 1200 名の在学学生を抱えています。ここでも広い意味での環境関連の講義が要望されています。信州大学の教職員にも大変お世話になっていますが、本プロジェクトとの連携も今後展開できればと考えておりますので、よろしくお願いします。

早稲田大学人間科学部 特任教授 沖野外輝夫
(信州大学名誉教授)